

# 日本英学史学会 中国・四国支部

## ニューズレター

No.49

*Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter*

### 節目の年を迎えて

竹中龍範

皆さま、明けましておめでとうございます。

昨年は、近年の気候変動と軌を一にするが如くに、何かと陰陽交々の話題に満ちた一年でしたが、今年こそは未来に向けて一つのステップとなる年になればと念じております。

一ステップという意味では、本年2007年は、わが日本英学史学会中国・四国支部にとってひとつの区切りを記す年に当ります。支部研究紀要『英學史論叢』各号に掲げられております「日本英学史学会広島支部 設立趣意書」をご覧いただければ分るように、支部発足は1977年秋、すなわち、今よりちょうど30年前のことでした。30年というと而立の歳、すなわち、十有五にして学に志した孔子が三十にして立った年に当ります。また、この数字は一代、one generationを表すものでもあり、支部発足時の世代より次の世代に発展すべき時にも当たることとなります。世は晩婚化の趨勢にあるとは言え、やはり一つの世代観形成の区切りにあたる節目となることに変わりはありません。わが支部における英学史の研究が新たな世代観の下に進められることが求められております。言うまでもなく、これは先の世代観が捨てられることを意味するものではありません。まさに温故知新、歴史を研究する者が決して忘れてはならない理と言えましょう。

この支部発足30周年に加え、『英學史論叢』も第10号を迎えます。前身の『英學史會報』から数えると通巻30号となります。これは、支部会員の皆さまのご支援により、支部発足時の手書き原稿を複写・ホッチキス製本したものから、今やISSNを得、国会図書館に納本する定期刊行物として、纏綿として刊行を続けております。支部会員の皆さまには、この記念すべき第10号への積極的なご投稿を切にお願い申し上げます。

さらに、本ニューズレターも新年度には第50号を数えます。現在顧問の寺田芳徳先生が事務局長のときに創始された『英學史會報』速報版とも呼ぶべきこのニューズレターは、年刊情報の間を埋める情報源として大きな役割を果たしております。現在は有能な事務局長馬本勉先生がこの編集にあたって下さっていますが、これも会員の方々からの情報提供によって内容が充実する性格のもので、あわせてご協力をお願い申し上げます。

支部発足30周年の節目にあたり、お願いばかりを申し上げましたが、これからの30年、これまでとはどのように異なり、如何ように発展するのか、ケネディ大統領の就任演説を借り、“And so, my fellow members of Chugoku-Shikoku Chapter of the Historical Society of English Studies in Japan; ask not what your chapter can do for you ask what you can do for your chapter.”を以てご挨拶いたします。

(日本英学史学会中国・四国支部長)

## 平成 18 年度第 2 回 (通算 55 回) 支部研究例会報告



今年度第2回(通算55回)の研究例会は、平成18年12月2日(土)、竹中龍範支部長・田村道美副支部長のご尽力を賜り、香川大学教育学部を会場として開催されました。参加者12名。2本の研究発表はいずれも豊富な資料に基づく充実した研究の成果であり、フロアとの議論も活発に行われました。例会終了後、瀬戸内の海の幸を囲んで忘年懇親会が開かれ、出席者一同、和やかなひとときを過ごしました。

### プログラム

日時：平成18年12月2日(土)

午後1時30分受付開始

場所：香川大学教育学部

〒760-8522 高松市幸町1-1

TEL: 087-832-1523 (竹中研究室)

受付(13:30-)

開会行事(14:00-)

・竹中龍範支部長の挨拶

研究発表(14:10-15:10, 15:30-16:30)

「岩国英国語学所に関する研究(1)

教師ステーブンスとその教え子たち」

保坂芳男(立命館大学)

(休憩15:10-15:30)

「オーラル・メソッド もう一つの実践」

竹中龍範(香川大学)

閉会行事(16:30-)

・田村一郎副支部長の挨拶

以下、研究発表の概要と感想を掲載します。

### 1. 「岩国英国語学所に関する研究(1)

教師ステーブンスとその教え子たち」

保坂芳男(立命館大学)

<概要>本研究は、山口県の明治期の英語教師研究の一環である。明治期の山口県の教育の卓越性はさまざまな方面で指摘されていた(田中, 1936; 外山, 1899)。それは、県独自の教育政策にあった。筆者はまず、岩国に明治4年から2年間だけ設立された岩国英国語学所の教師ステーブンスについて調べることにした。岩国英国語学所は、わずか2年の存続であったが、卒業生の中には日本のエジソンといわれた藤岡市助や帝国図書館初代館長の田中稲城などがある。

今回は、岩国藩の洋学所設立の経緯、ステーブンスの契約内容を主に検討した。また、ステーブンス招聘の謎(誰が招聘したか)についての仮説(伊藤博文説や木戸孝允説など)を紹介した。

概念的なまとめではなく、実証的立場で進められており、強い印象を受けました。焦点化することも容易ではないかもしれませんが、大きく体系づけられ、まとめられますように。(松村幹男)

幅広く資料を集められてのご発表でしたが、歴史研究としては少々脆弱さを感じさせるものとなっていた点が惜しまれます。仮説をたてるにしても、史料による裏付けがないとこの分野では説得力を持ちませんし、その史料についても史料批判を経た上で提示することが求められます。まずは、今井登志喜『歴史学研究法』(東京大学出版会)などによって史的研究の方法を押さえられることをお勧めします。(Dragon)



保坂 芳男 氏

(追記) 帰宅後に確認した情報を2件ばかり、ご参考までに。

・『英学史研究』第31号に上杉先生が「英学史始め in Iwakuni 岩国英国語学所と英国人教師ステーブンス」をご発表になられています。ご参照下さい。

・質疑応答で少し触れた重久篤太郎『お雇い外国人教育・宗教』の巻末「文部省御傭外国人明細表明治六年八月」に「〔山口県〕英 ステーブンス (34[歳]) 明4・7・1~向2年〔一元〕英語学 (p.221) とあります。なお、この岩国のステーブンスと関係があるかどうか不明ながら、同書本文「功績のあった人びと」の章中、「ジョン・トマス・ギュリック」の節に「神戸時代の1880年(明治13)に、大阪梅花女学校の創立者の一人であるフランセス・スティーブンス (Frances A. Stevens) と再婚した。」(p.97)との記述がありますので、もし彼女が同じ出身地であればこの梅花女学校の線から何かつながりが得られるかもしれません。ご参考までに。(Dragon)

本日の発表を拝聴し、山口が英学の宝庫であることを再認識させていただきました。今後この宝庫を発掘し、次々にすばらしい宝を発見されることを期待しております。(Emma)

今回の発表は発表題目のサブタイトル、つまりステーブンス本人を浮き彫りにすることであったが、不明な点が多々あるとの結論であった。この人物は神戸がホームグラウンドであったことは否定しがたいようである。神戸ルートからさぐりを入れると展望が開けるのではないかと思います。(田中正道)

保坂先生のご発表は「郷土山口の英学史研究をまとめる」という意欲に満ちたもので、その迫力に圧倒されました。久しぶりに大型の英学史研究者が出

現したという思いがしました。発表時間が足りず、ご本人には不満足な発表になったかと思いますが、是非、次回も続編をご発表いただきたいと思います。

保坂先生の誠実なお人柄そのままのご発表だったと思います。ていねいに調べておられ研究のあり方をご示唆いただき感謝しております。ありがとうございました。

岩国英国語学所のステーベンスと伺い、何年か前にこの学会の岩国例会で岩国教育資料館を訪れたのをふとなつかしく思い出しました。岩国の偉人たちの名前が連ねてあったように記憶していますが、その彼らの多くはこのステーベンスの教え子だったのではないかと思います。

今日ご発表の「仮説」、特に「使用された教科書」等が明らかにされること、そして今日、時間の関係でご発表されなかった当時の岩国英国語学所での「イメージ教育」の実態が明らかにされることを楽しみにしています。(Rainbow)

膨大な資料を収集し、よく研究されています。時間と労力を費やして、ここまで調べられたのは敬服します。ただ視点をクリアにした方がよりよいのではと思いました。例えば、教科書の内容とステーブンスとか。これからもすばらしい研究を期待しております。(上西幸治)

学会には10年位前から参加させて頂いたが、発表は今回初めてで緊張した。英学史研究のベテランの先生から立体的な研究の方法を教えて頂いたことは収穫であった。(保坂芳男)

\*\*\*

#### [例会全般・支部活動に関して]

広島支部より中国・四国支部に拡大発展した今、特にこの12月例会にもっと多くの会員が参加されることを期待し、お願いしたいと思います。5月の例会・総会とこの12月例会とも定例開催ですので、年間予定に組み入れておいていただきたく、もし、この時期が大方の支部会員にとって他事が重なる時期であるということであれば、開催時期について再検討をお願いしなければならないかと考えております。(Dragon)

## 2. 「オーラル・メソッド もう一つの実践」 竹中 龍 範 (香川大学)



竹中 龍 範 氏

<概要> H.E. パーマーが提唱し、日本において展開したそのオーラル・メソッドをめぐっては、一部に誤解・反論もあったが、いくつかの学校においてはしかるべき成果をおさめ、そのうち、英語教授研究大会における授業実演によって紹介されたものは小篠(1995)、伊村(1997)に詳しく取り上げられている。しかしながら、このオーラル・メソッド受容の全体像を描くためには、その他の実践をも発掘し、パーマーの考えが日本という土壌に根付くためにいかなる変容が加えられたかを明かにすることが必要である。本発表では、その一つの事例として京都府立福知山中学校における「新教授法」の導入と展開とを取り上げて紹介した。

着実な手法で史料を探し、とりあげられ、英語授業史の知見をひきあげられる発表であったと思いました。(松村幹男)

竹中先生は資料収集の達人であり、かつ珍しい資料を秘蔵せず、学会発展のために惜しみなく公表してくださる方である。今回の発表でも、貴重な資料をお示しくくださったことに感謝しております。(Emma)

福知山の発掘がすばらしかった！(田中正道)

オーラル・メソッドの日本における展開について、新しい資料に基づき、地方史という新しい視点から分析された、聴衆としてとても興奮させられるすばらしいご発表でした。パーマーの英語教授法の研究の新しい地平が拓かれたと強く感じました。

オーラルメソッド、パーマーの提唱した教授法の実践としては「福島プラン」と「湘南メソッド」が

有名であるが、今回のご発表では京都府立福知山中学校での実践を明らかにされた。当時(昭和初期)の英語教師の様子もよくわかり興味深く、いつもながら竹中先生のシャープなご発表はとても刺激的でした。ありがとうございました。(Rainbow)

大変勉強させて頂きました。過去の歴史(英語教育)の意義深さをとても深く学びました。福島プラン等オーラルメソッドについて認識をあらたにしました。今後勉強させて頂きます。(上西幸治)

パーマーのオーラル・メソッドが、その採用校の実情に応じてどのように変化し、実践されたかを示す貴重な資料に感銘を覚えました。小篠先生の「日本が変えた、パーマーの教授法」という視点から眺めてみると、特に興味深いものがあります。今回の竹中先生のご発表により、パーマー教授法の変化が日本の各地で起こっていたことが明らかにされました。その総和によって「日本がパーマー教授法を変えた」という道を辿るのだろうか、と感じました。その事例を記した資料は、まだまだ発掘の可能性を秘めているように思われます。パーマー研究の奥深さを痛感するとともに、今後の展開に心躍るご発表であったと思います。有難うございました。(Horse)

### << 研究資料の紹介 >>

竹中先生の御発表資料より、福知山中学校における英語の授業過程を示した箇所の一部を掲載します。なお、( )内には、日野巖(1933)「本校英語科に於ける新教授法の研究」京都府『中等教育研究』(教育資料第五輯) pp.169-181。(京都府, 昭和8)からの引用ページが記されています。

\*\*\*

### 京都府下中等学校英語科教授法研究会(昭和5年10月11日)における授業公開

- ・ 標記の研究会を、昭和5年10月11日に福知山中学校にて開催
- ・ 参加者 30 数名ならびに同校教員
- ・ 2 時限に 3 年西組文法、4 年西組正読本、5 年中組作文の、3 時限に 2 年東組読本、3 年東組読本の、4 時限に 1 年西組読本、2 年中組作文、4 年東組作文、5 年 A 組副読本の授業をそれぞれ公開、うち、3 時限授業が同校新教授法の実際を発表する中心授業

<教授の実際>

二年東組、榎本教諭担当

・復習(約十分)

- 1、書取又綴字の口頭問答
- 2、内容につき会話す、場合に依りては国文英訳、英文国訳、暗誦をなさしむることあり。

・教授(約三十分)

- 1、実物又は絵画を用ゐて新教材の内容を生徒の解する英語にて話す。
- 2、教師一節づゝ一回範読。
- 3、生徒斉読。
- 4、生徒個人朗読。
- 5、難解の語句はパラフレイズ又は日本語にて説明、重要語句にアンダラインせしむ。

・整理

- 1、全体を教師又は生徒通読。
- 2、教師又は生徒の質問 以上

三年東組、日野教諭担当

・復習(五分乃至十分)

問答、会話、書取、暗誦、単語の意味、綴字並びに宿題のある場合之の整理、更に質問の処理。

・教授(三十分乃至三十五分)

聴取、会話、問答に依りて新教材の内容を理解せしめ進んで成句、単語の類を把握せしめてより、読本を開かしめ範読に次いで斉唱をなさしめ、個人の読方の批正、同意語句、反意語句などを言はしめ各語句の意義を正確にするべく語源に溯り、質問を受け必要ある場合反訳せしむ(或は ととを同時に呼応して施行す)

・整理(五分乃至十分)

之は前教授と伴ふ場合あり、内容につきて会話し作文せしむ又主として劣等生の理解を確かむる為国訳せしむる事多し。

備考 実物、絵画等を提供して理解し易からしむる事あり。

(p.173)

\*\*\*

福知山中学校の英語科教授の一般方針と教授要旨

英語科教授一般方針

平易なる英語を聴き語り且つ綴り普通の英語を読む能力を養成し傍ら智識、思想を豊富にし徳性の涵養に資するを以て目的とす

英語科教授の方法

低学年に於ては成る可くオーラルメソッドに依りて教授し高学年に於て普通の英語は直読直解する能力を得るやう努力す

(p.170)

第一学年英語教授の要旨

毎週教授時数 五時間

教科書 井出義行著 The Orion Readers Bk. I.

教授の要旨

- 1、発音、音韻及音の accent を正確に聴取し且之を確実に再現せしむることに努力す。
- 2、語形及語法の基本的智識を習得せしむる事に努力す。
- 3、簡易なる語、句、文等の聴方、読方及解釈及発表は hearing 及 reading, speaking 及 composition 各方面より oral exercise に綜合して同一程度の発達を期し speech learning habit の養成に努む。
- 4、書取 自然の速度にて読み聴かせたる簡易なる語、句、文を迅速正確に書き取らしめ全文の理解を主として spelling の法則に通ぜしむる事を期する semi-oral test たらしむ。
- 5、習字 運筆を正確自在にし、正確明瞭迅速に書き得るやう努力す。
- 6、Realien 教授の徹底を期す。
- 7、以上各項に注意する事に依りて将来の英語学习上確乎たる基礎を造る事、即初学年に於ける外国語学習に対して有する強き興味を刺激助長して自発的学習の良習を得しむるに努力す。

第一学年教授の方針

- 1、入門授業 読本に入る前の最初の七週間を之に充て音韻音価の聴取発表に習熟せしめ Imperative Drill より入りて簡単なる口頭作業を行ひて speech-learning habit の養成に努力し、且つ其間に音標文字を習得せしめ、正字に入らしむ。
- 2、凡そ第八週より読本に入るもアルファベットの読方は総括的に授けずして綴字と発音の関係即その法則に注意せしむ。
- 4、凡そ第十二三週に至りてアルファベットの読方を総合的に習得せしむ。
- 5、以上は第一学期に於ける教授過程の大綱にして ear-training exercise を主として oral exercise を併用し文法等は mechanize して習はしむるやう努力す。

第二学期以後は direct-oral method を中心として読本に就て学習せしめ oral exercise に依つて英語初歩学習の効果を各分科に互つて挙げる事に努力するのである。

教授案例

教材 前記読本 [ The Orion Readers ] 巻一第七頁

What is this?  
It is a book.  
What is that?  
It is a bird.  
What is this book?  
It is an English book.  
What is that bird?  
It is a robin.

教授目的

- 1、(a) What is this? What is that? 等 What is ~? なる疑問文を教ふ。
- (b) this book, that bird に於ける形容詞としての this, that を教ふ。
- 2、新語 What [wɒt]; book [buk]; bird [bɜ:d]; English [iŋɡliʃ]; robin [rɒbɪn]

教法

- 1、復習
  - (a)、前時教材を英語にて問答す。
  - (b)、前時教材の書取を印刷体にて課す。
- 2、教授
  - (a) 絵画又は実物を示しながら次の如き聴取練習を反復して為さしむ。  
This is a book. That is a bird. This is not an English book. That is not a bird. This is a bird. That is not a book.  
Is this a bird? — No, it is not.  
Is this a fan? — No, it is not.  
What is this, then? — It is a book.  
What is this book? — It is an English book.  
Is that a dog? — No, it is not.  
Is that a fox? — No, it is not.  
What is that, then? — It is a bird.  
What is that bird? — It is a robin.
  - (b) 次に問答練習  
Is this a book? — Yes, it is.  
Is that a bird? — Yes, it is.  
Is this a bird? — No, it is not.  
What is this, then? — It is a book.

What is this book? — It is an English book.  
Is that a book? — No, it is not.  
What is that? — It is a bird.  
Is this a book, or a bird? — It is a book.  
Is that a book, or a bird? — It is a bird.  
What is this book? — It is an English book.  
What is that bird? — It is a robin.

(c)、新語は予め小黒板に音標文字のみにて書き置き、此時生徒に示して発音練習を施す。次に新語の綴字を之に書き添へて始めて[ママ]斉唱、後、指名して単語を教授す。

但し、二音節の語 English 及び robin 始めて現るを以て、此際 accent を教授し、併せて English は固有名詞 England より派生せるが故に、形容詞なれども Capital letter にて書き始むる事を注意するものとす。

(d)、読解

次いで読本を開かして教師範読二回、後生徒斉唱更に数名個人に指名して読ましむ。

但し邦語を用ひて、此際形容詞として用ひられたる this, that に注意せしむ。

(e)、応用練習 (口頭にて)

Is this a pen? — No, it is not.  
What is this? — It is a pencil.  
Is this a book or a note-book? — It is a book.  
What is this book? — It is a Japanese book.  
Is this a door? — No, it is not.  
What is that? — It is a window.

(f)、書取練習

右終了して時間に余裕ある時は本日の新教材を筆記帳に書き取らしめ、時間無き時は自宅に為さしむ。

(g)、予告

次の時間本日の新教材の暗誦を行ふべき事を予告す。

備考

- 1、教具 英語教科書、ペン、鉛筆、国語読本、robin の絵画 (能ふべくんば剥製標本)
- 2、(a)の聴取練習及び(b)の問答練習に於ては教師は種々位置を変じて this は近きものを指し that は遠きものを指す事を自然に生徒に悟了せしむ。
- 3、What is ~? なる問に対しては yes 或は no と答へざる事を聴取、問答練習中に自明ならしむ。
- 4、教師は授業中終始快活なるべし。

(pp.177-179)

\*\*\*\*\*

## 『英學史論叢』第10号原稿募集

新年度発行予定の『英學史論叢』第10号(通巻30号)の原稿を募集します。今年度改定された以下の投稿規定に沿って、奮って投稿ください。

なお、節目の号となりますので、今回は「英学史随想 30周年記念特集」と題して、皆様からの随想をお待ちしています。原則として2ページ以内(以下の標準書式を参照)広島支部の頃からの思い出や、ご研究の回想などをお寄せください。比較的新しい会員の方々も、これまでの研究例会等で印象に残ったことがらなど、奮ってご執筆ください。

投稿論文、その他の原稿は、以下のスケジュールでお送りください。

### 1) 投稿論文(研究論考・研究ノート)

- ・投稿申込:「投稿予定」である旨、お知らせくださるだけで結構ですので、平成19年2月10日(土)までに事務局へメール、またはFAXにてお知らせください。(e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp) (FAX: 0824-74-1725)
- ・原稿提出:事務局まで正副計3部をお送りください。締め切りは、平成19年2月28日(水)(消印有効)です。メールの添付ファイル(MS Word)でも結構です。(以上、事務作業の都合上、前号でお知らせした期日を少し変更しています。ご了承ください。)

### 2) 「30周年特集」英学史随想

(および、その他の原稿)

- ・投稿申込は不要です。平成19年3月20日(火)(消印有効)までに、事務局まで1部お送りください。メールの添付ファイル(MS Word)でも結構です。

\*\*\*\*\*

### 『英學史論叢』執筆要領

- ・『英學史論叢』に載録するものは研究論考・研究ノートおよびその他のものとする。いずれも未発表のものに限る。
- ・研究論考・研究ノート、その他のものとも、原則として提出されたものをそのまま複写印刷するものとする。手書き、タイプライターやワープロによる印刷など、いずれも標準書式に従った完全原稿を提出するものとし、執筆者による校正は行わない。用紙は白紙を用いるものとし、原稿用紙等罫線のはいたものは受理しないことがある。

- ・研究論考・研究ノートは日本英学史学会中国・四国支部研究例会、日本英学史学会本日月例会および年次大会、ならびに他支部研究例会における口頭発表をまとめたものとする。これによらない投稿論文も受理することがある。いずれも正副3通を提出し、編集委員会の査読を経て掲載の可否、書き直し等を決定するものとする。なお、編集委員会は必要に応じて編集委員以外の会員に査読を委嘱することができる。
- ・研究論考・研究ノートは参考文献・資料・図版等を含め、10ページ以内とする。
- ・掲載決定後の最終原稿はプリントアウトしたものと合わせ、電子媒体によるデジタルデータを提出することを原則とする。
- ・研究論考・研究ノートの掲載料は1編につき3,000円とする。ページ数を超過した場合は、1ページにつき1,000円の追加掲載料を負担するものとする。学生会員については、規定ページ数以内の場合は掲載料を免除する。
- ・その他のものについては、英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等とする。これについては会員の投稿および事務局・編集部への執筆依頼によるものとする。なお、新刊書評・紹介は日本英学史学会中国・四国支部会員の著書ならびに中国・四国支部の活動に関わる著作を取り上げるものとする。英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等、いずれも原則として2ページ以内とする。

### 『英學史論叢』標準書式

- ・用紙はB5判白紙を用い、上部に25mm、下部および左右に20mm、それぞれ余白をとる。
- ・本文は、10ポイントないし10.5ポイント文字を使用し、1行あたり38文字、1ページ38行の書式によって作成する。
- ・本文第1ページに8行分をとって論文タイトル、執筆者名を記す。論文タイトルは4倍角文字ないし18~20ポイント文字を使用し、中央に置く。執筆者名は本文と同じ大きさの文字を用いて、右に寄せて記す。なお、論文末に、右に寄せて、執筆者の所属をカッコに入れて示すこととする。
- ・本文中の見出しについては1行アキとし、番号を付して太字、あるいはゴシック体とするか、下線を施して見やすくする。
- ・注は、脚注、尾注のいずれも可とするが、本文中に右肩数字によって注のあることを明記する。
- ・参考文献、引用文献は論文末に一括して示す。
- ・英字・数字はすべて半角文字とする。

## 中国・四国支部ニュース

### 平成 18 年度第 2 回役員会

2006 年 12 月 2 日、高松例会に先立ち、理事会を開催しました(出席者 7 名)。主な議題は次の 2 点です。

- (1) 支部発足 30 周年を迎え、研究紀要も通巻 30 号となる来年度の行事予定について
- (2) 来年度の役員改選について

### 訃報

江川義雄先生 平成 18 年 6 月 18 日にご逝去なさいました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

### 寄贈図書の紹介

村端五郎・小澤萬記(編)『西谷文庫目録(高知県立佐川町立青山文庫)』高知大学人文学部 2006 年

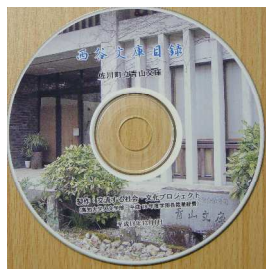


平成 18 年度高知大学人文学部研究プロジェクト経費研究「交流する社会・文化」(研究代表 岩佐和幸)の成果。A4 版 300 ページを超えるこの

目録は、Gilbert White, *The Natural History of Selborne* の訳書『セルボーンの博物誌』で知られる西谷退三(本名 竹村源兵衛、1885~1957)の旧蔵書である和漢書 8,720、洋書 1,609 の書誌一覧です。

50 年間ただ一冊の英書の翻訳のため、佐川町のはずれ「西谷」に隠棲し、孤独寂寥の生活を送りながらペンを執り続けた西谷退三。訳文と注釈へのこだわりから、自然科学・人文科学に関する書物を蒐集したといえます。自らセルボーンの風景にふれるために外遊し、英国の自然文学や博物学に関する書を購入して帰国。訳書には、万巻の書物を参考にした独自の注釈がほどこされています。

英学関係の書物も多く含まれる膨大な書誌情報を収めた本目録は、まさに圧巻。高知、そして中国・四国地方の英学を研究する上で必携の、貴重な労作です。書誌データをエクセルファイルとして収録し、青山文庫の写真が刷り込まれた CD-ROM も付いています。閲覧希望は事務局まで。



### 事務局より

来年度第 1 回研究例会(5 月 26 日(土)広島市・比治山大学で開催予定)の発表者を募集します。研究発表(口頭発表 30 分・質疑応答 20 分・計 50 分)をご希望の方は、3 月末までに事務局へご連絡ください。

会費の納入について

すでに多数の会員の皆様より今年度の会費(一般 3,000 円、学生 2,000 円)をご納入頂いております。ご協力に感謝申し上げます。これからお振込みの方は下記口座までよろしくお願ひします。

(口座番号) 01360-9-43877

(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

### 広島英学史の周辺(15)

『西谷文庫目録』には、英米文学・語学の研究書、注釈本、辞書、リーダー、独案内や、解釈・文法・作文など英語独習書も含まれています。広島にゆかりの書物も多数あり、『日本英學物語』(定宗数松)や、『語原本位 英和辞典』(広島中学校英語研究部)に目がとまります。この機会にと思い、西谷退三訳『セルボーンの博物誌』を古書店で入手。森下雨村による紹介文が掲載された出版チラシや、雨村に関する切り抜きが挟み込んでありました。そのほか、内容に関連したメモ、手描きの「セルボーンの博物誌参照地図」や oak tree の絵まで。元の持ち主がこの書を愛読した様子が伝わってきます。西谷は『博物誌』について述べたジョン・バロウズのことは「まえがき」に引いています。「チビリチビリと少しづつ見るべき書である。舌の上でしゃぶりながら味ふべき書である。炉辺で静かに考へながら見て、その真味と身にしみるような味ひがわかる」「これは、性急、又は上気した事務的繁忙とは全くそくはぬ書である」と。支部発足 30 周年。今年は少し、ゆっくりと時の流れる一年であれば、と願っています。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No.49

2007 年 1 月 27 日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)

e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ: <http://tom.edisc.jp/eigaku/>